

福高はあなたの「みらい」を応援します！

文理科学科

文理科学科は「夢を実現できる専門学科」です。難関大学や医歯薬系を目指したハイレベルな授業を展開し、そのなかで夢を実現する力を身につけます。「ほんとにそんなことができるの？」と思っているみなさん。実際にそれを実現した先輩たちの体験記を読んでみましょう。きっとみなさんは文理科学科に進学したくなるはずです。

“福高で夢を実現した先輩たち！”

医学部や難関国立大学に合格した先輩たちのメッセージを紹介します。

四方 翼（京都府立医科大学 医学部 合格）

今までに経験したことのないようなプレッシャーに耐えて、私の夢であった医学部医学科の合格を無事勝ち取ることができました。こうして夢を叶えることができたのは、福高に入学してからの3年弱という期間で自分自身を大きく成長させ、その自分の力を本番で発揮できたからであると考えています。

私は、電車と自転車で片道およそ40分をかけて福高に通いました。陸上競技部での3年生の最後の大会が終わるまで長距離走を専門に活動しました。また、3年間無遅刻無欠席を達成できました。部活動で帰宅の時刻が遅くなることもあり、学習塾や通信添削は利用せずに、とにかく学校の授業を大切にすると決めて、福高での学習をスタートさせました。

入学直後は、中学校の頃とは比較にならない文理科学科の高度な授業、部活動による疲労、求められる家庭学習の量に圧倒されてしまい、学校についていけるか不安でしかたがありませんでした。身体もはじめはとてもしんどかったです。しかし、先生の激励や、友人同士の励まし合いや、部活動の先輩のアドバイスなどに勇気をもらい、自分にできる最大限の努力をした結果、1年生の5月ごろには自分の学習のペースを確立することができました。

そんな生活の中で気づいた大切なことがあります。それは「学校の学習を大切にすること」です。定期考査で点を取ることを目標に置くと、授業などへの取り組み方がよくなります。「学校の学習を大切にすること」と言うと、ありきたりに聞こえてしまうかもしれませんが、これは、決して楽なことではありません。反対に、背伸びをした難関に取り組む学習は大きなエネルギーを必要とします。さらに場合によっては理解ができなくていやになる恐れがあり危険です。私は、学校の先生の言葉を信じて勉強することで、当たり前のことを当たり前にするものの威力を知り、医学部受験のスタートラインに立つことができました。

3年生の受験においては言葉で言い表せないような緊張を感じながら受けたセンター試験で、私は目標点を達成することができました。京都府北部の医師不足の解消に貢献し、さらには地元の活性化に貢献するという夢をかなえるために、私は予定通り京都府立医科大学医学部医学科の「センター試験を課す推薦入試」を受験しました。面接試験が課されたので、毎日夜遅くまで先生と面接の練習をしました。面接では、勉強では計ることができない人間性が問われると言われていました。医師は、病める人を癒すことが仕事であるため、勉強ができればよいというわけではなく、患者とのコミュニケーション能力が非常に大切です。コミュニケーション能力と一口にいても、それは実際にどんなものなのか、それを身につけるためには何ができるのか、といったことは考えてみるととても奥が深いものです。コミュニケーション能力に対する考えを深めることが、そのまま面接対策になりました。医学部を志望する人は、ぜひ参考にしてください。



中国研修旅行



部活動での長距離走



谷沢 駿（名古屋大学 教育学部 合格）

中学生のみなさんは、いま高校入試に向けて日々勉強に精を出していることと思います。そんな中で、高校入試に対する不安を抱えている人やまだ進路がはっきりしていない人もいるのではないのでしょうか。私も大学受験はもちろんそうですが、高校受験に対して不安を抱いていました。「勉強方法はあっているのか。」「果たして本当に合格することができるのか。」しかし、私は絶対にこの学校に行きたいという気持ちだけはぶれませんでした。中学生のみなさんも志望校に対する熱意だけは最後まで持ち続けてください。そして、いままで自分がやってきたことに自信を持ってください。これから書く私の高校生活の体験記が少しでもみなさんの役に立てれば幸いです。

まずは文理科学科にある特別授業についてお伝えします。私が高校3年間をすごした文理科学科には、「みらい学」という授業があります。これはグループで行う研究活動です。1年生の間は、大学教授の講義を聴き、研究の方法を学びます。そして、2年生では個人やグループでテーマを設定し、研究活動を行います。私は、この「みらい学」という授業を通して研究の楽しさを知り、大学でも研究活動に取り組みたいと思うようになりました。また、「みらい学」で身につけたプレゼンテーション能力が入試本番のプレゼンテーションにも活かしました。

次に、学校生活についてお伝えします。私は高校に入学する前、「文理科学科は勉強が忙しいから学校祭などの行事をクラスのみみんなで楽しむことはできないだろうな」と思っていました。中学生のみなさんのなかにも、同じようなことを考えている人がいると思います。しかし、それは誤解です。確かに、実際高校に入って勉強の量や難易度が上がり忙しい毎日が続きましたが、私のクラスは行事になると、どのクラスよりも楽しみます。どのクラスよりも一生懸命取り組みます。特に文化祭では、クラス内で衝突があったり、うまくいかないときもあつたりしましたが、本番はみんなが納得するすばらしいものをつくりあげることができました。普段の生活でもみんなが高め合い、支え合い、時には面白いこともできるこのクラスを私は誇りに思います。

たくさん言いましたが、わたしは福知山高校で高校生活を送ることができて本当に良かったと思います。私が過ごした3年間は一生の宝物です。

中学生のみなさんも文理科学科で夢を実現できることを祈っています。



「みらい学Ⅱ」研究発表会

ポスターセッションとは

発表者が研究成果や調査報告をまとめたポスターを掲示し、記載内容に従って発表していきます。発表者が一方的に発表するだけでなく、聞いている人から直に質問を受けて回答するなかで、そのテーマについてお互いの理解を深めていくプレゼンテーションの手法です。各研究の発表において主流となっています。

「みらい学」研究交流会

文理科学科1年生の「みらい学Ⅰ」では特別講義を受けた後、講演をいただいた教授からいくつかの研究テーマをいただき、グループワークでそのテーマについて研究していきます。研究結果はポスターセッションという形で保護者などの参加者を集い発表されます。生徒たちはこの活動を通じて「チームワークの大切さ」や「わかりやすくまとめる方法」また、それを用いて「伝える方法」などを学び身につけていくことができます。

この研究発表会がいよいよ今月の18日に実施されます。生徒たちは初めての活動からか戸惑う場面が多く、順調に作業が進んでいる状況とはいえません。発表までにグループ一丸となって内容をまとめ、プレゼンテーションができるようになるのでしょうか。その報告は来月号に掲載するので楽しみにしてくださいね。

